

	内容別・課題別の 課題分析 (知識、技能)	具体的な授業改善策	評価・反省
国語	<ul style="list-style-type: none"> 長音や促音、拗音の表記、助詞の使い方を正しく理解して文章の中で活用することに課題がある児童がいる。 平仮名や片仮名の音と形との一致に課題がある児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用しながら、表記の仕方や使い方などを視覚的に理解できるようにする。また、日々のノート指導を通して、個別指導を重ねていく。 授業中だけではなく、休み時間の個別指導や家庭学習を通して復習の時間を意図的に設け、学習内容を定着させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の授業の中で、自分の考えを書いたり、物語を書いたりする学習を通して、正しい表記や適切な助詞の使い方を理解して文章を書く力を伸ばすことができた。 繰り返し指導をしたことで、平仮名や片仮名の間違いが減ってきている。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 数の合成や分解に対する感覚が乏しい児童がいる。 文章を読み、加法か減法か自分で立式することに課題がある児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ブロックやおはじきなどの半具体物を使って視覚的に理解できるようにしたり、手遊び(ごまだんご、おまんじゅう)等と関連付けたりして、定着を図る。 加法のポイント(ぜんぶで、ふえると、あわせて等)、減法のポイント(へると、のこりは、ちがいは等)を文章中から見つけ、おさえさせる。減法は、大きい数から小さい数を引くという式の数字の順番を、半具体物を使って視覚的に理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 視覚的に理解するよう板書を工夫し、声を出して数えたり、10と関連付けて表したりすることで、数の合成や分解に対する感覚を養うことができた。 ポイントとなる言葉を繰り返しおさえたり図に表したりすることで、加法か減法かを区別し立式できる児童が増えてきた。
生活	<ul style="list-style-type: none"> 植物の観察では、種や葉、花に注目してはいるものの、細部までよく見て観察することに課題がある児童がいる。 学校の施設の使い方や生活上必要な習慣や技能の習得に課題がある児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察する視点を児童が意識できるように、【見たこと・におい・手触り・気持ち】の4つにポイントを絞って児童に提示し、指導する。ICTを活用して、児童の観察カードを互いに見合い、さらに学習内容を深められるようにする。 学校の施設の正しい使い方を繰り返し指導し、気を付けて生活している場面を見取って称賛することで、さらなる意識付けを図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察する視点を明確にしたことで、よく見て観察を行うことができた。ICTを活用したことで互いの成果を共有する機会が増えた。 児童の良い行動を見取って称賛し、周知したことで、基本的な習慣や技能が概ね身に付いた。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> リズムを聞いたり、リズム譜などを見たりして演奏する技能に課題がある児童がいる。 互いの楽器の音や伴奏を聞くなど、音を合わせて演奏する技能に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> リズムをよく聞き、リズム、速度、強弱などに気を付けながら繰り返し演奏させる。視奏では、教師のリズム唱や階名唱を模唱することに十分慣れさせた上で、簡単なリズム譜や楽譜を視奏させる。 伴奏に合わせてフレーズごとに交互に演奏したり、旋律とリズム伴奏をそれぞれ演奏した後に合わせたりするなど、繰り返し練習させる。また、様々な楽器を用いた合奏では、自分や友達が担当している楽器の役割を意識し、音を合わせて演奏する楽しさを味わわせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用し、視覚的な支援を行うことにより、演奏の技能が向上した。 様々な楽器を用いた合奏を行い、互いの楽器の音や伴奏を聞くことに焦点を当てることで、音を合わせて演奏する技能が向上した。
図工	<ul style="list-style-type: none"> 身近で扱いやすい材料や用具に十分に慣れることに課題が見られる。 表現したいことをもとに工夫して表現することに課題がある児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 材料や用具を楽しく使えるような題材を設定する。表し方を工夫して創造的に表すことを積み重ねることによって身に付くという視点から、一度扱った材料や用具でも、繰り返し経験することで十分に慣れるようにする。 発想や構想を含めた過程で技能を捉える。思い付いたことがすぐにできるような材料や用具をあらかじめ用意しておく、多様な試みを支えるため、材料はある程度の量を用意する。児童が主体的に表し方を工夫できるよう、教師は設定を簡略化して見守る姿勢をとり、時折声をかけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 画用紙やはさみといった身近な材料や用具を、年間通して使うことで、多くの児童が十分に慣れることができた。 発想や着想がよい児童を進んで認め全体に紹介したり、個別に活動中に声をかけたりすることで、工夫して表すことができる児童が増えてきた。
体育	<ul style="list-style-type: none"> 自分のイメージ通りに体を動かすことが苦手な児童がいる。 マット遊び、体づくり運動などでは、体の保持やバランスをとることに若干の課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 体のバランスをとったり、まねっこをしたりするなどの楽しい運動遊びを通して、様々な動きを身に付けられるようにする。 上手な児童にお手本を見せてもらったり、教員が補助に入ったりして苦手な児童も挑戦しやすいようにする。「6小サーキット」などを日常的に取り入れ、自信や成功体験を積み重ねられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しみながら運動に取り組むことで、意欲的に体力の向上を図ることができた。 お手本を見せてもらったり、補助に教員が入ったりするほか、動きの中に遊びの要素を取り入れるなど、苦手な子でも取り組みやすい環境を作ることによって、自分から挑戦しようとする姿が見られた。